

いのちあふれる森を次世代へ

# しれとこの 森通信

2022  
No. 25



P2  
特集  
魚道でSDGsにも貢献! 「手づくり魚道ついに完成」

P6  
アカエゾマツ間伐材の活用にチャレンジしています!

P8  
Shiretoko News しれとこニュース

National trust 100㎡ Movement Forest Trust  
100平方メートル  
運動の  
木林  
トラスト

魚道でSDGsにも貢献!

海の恵みを森の奥深くへと運ぶサクラマス  
の復元。  
その鍵となる河川環境の改善の取り組み  
について報告します。

手づくり  
**魚道**  
ついに**完成**

森林の生態系を豊かに  
するために

100平方メートル運動地の中央を流れる岩尾別川では、かつてサクラマスが数多く遡上していましたが、戦後、川の氾濫を防ぐため砂防ダムが建設され、河川環境が分断されたことにより、その姿は見られなくなりました。海でたくさん栄養を蓄えて川へ帰ってきたサクラマスは、他のサケ類よりも上流まで遡上して産卵し、その命を全うします。力尽きて死んだ魚体は、様々な生き物に食べられることで森の栄養へと変換されていく。サクラマスは海の栄養素を森の最も奥深くまで運んでくれる貴重な存在と言えます。また、孵化したサクラマスの稚魚は海へ下るまでの1年半を川で過ごし、海へ降下せずに残った稚魚はヤマメとして川で生を過ごすことから、川魚を餌とするシマフクロウなどの生き物にとっては季節を問わず食すこ



とができる貴重な資源となります。当運動では、1999年から岩尾別川におけるサクラマスの復元を目指して、稚魚や発眼卵の放流を行ってきました。その成果として、2017年以降は海から回帰したサクラマスが10尾以上確認されるようになってきました。しかし、かつてのような生息数を取り戻すためには河川環境の改善、つまり砂防ダムなどの河川工作物の改良が大きな課題とされています。

○岩尾別川の主な河川工作物





■岩瀬さん指導の下、魚道の骨組みを造る。

2005年の世界自然遺産登録を機に、関係機関によって岩尾別川流域にある砂防ダム6基が改良され、残すところ本流にある砂防ダム2基と支流盤ノ川にある橋脚下の落差ダムの改良を待つだけの段階となりました。本流ダム2基は2023年以降に改良が着手されることが林野庁から公表され、それらダムの上流に位置する盤ノ川落差工の改良を具体的に進める時が来ました。

盤ノ川落差工は幅7m高さ2mあるコンクリート造りの段差で、通常では重機を用いた大掛かりな工事が想定されるため、所管する斜里町としては予算繰りに苦慮して

いました。7年前、全国各地で手作り魚道の設

置を手掛けていた岩瀬さん（株式会社北海道技術コンサルタント）との運命的な出会いがあり、重機を用いずに設置できる簡易魚道の設計を依頼することになりました。いくつかの現地調査を経て、増水時の水圧は左岸側に集中することが分かり、右岸側であれば簡易魚道の設置は可能であるとの見解となり、幅2m長さ10mの魚道を設置する設計が決まりました。構造体には木材が多く使用されることから、運動地から出たアカエゾマツ間伐材を有効活用することを目的に、地元製材所で間伐材から角材を50本挽いてもらい、それとは別に丸太も50本現場へ運びこみました。

## 市民参加型でつくる 簡易魚道

2021年9月28日、いよいよ設置当日。斜里町や環境省の職員、知床財団職員、斜里高校生など延べ32名が集まり、文字通り官民協働の作業がスタートしました。まずは、角材を落差工や護岸にボルトで固定し、それらを中心に骨組みを組み立てる作業で、これ



■骨組みの中に丸太と土嚢を敷き詰めて丈夫な土台が完成。

まで防鹿柵の建設で培ったチェーンソーや穴あけの技術が惜しみなく発揮され、1日目の作業は無事に終了。2日目、骨組み内部へ丸太や土嚢を隙間なく敷き詰める作業では、足場の悪い斜面をもっとも巧みなリレーで重資材が次々と運び込まれ、急ピッチで作業が進められました。そうして出来上がった土台の上に不織布のシートを敷き、ネットと土嚢でしっかりと固定し、ついに魚道は完成しました。川水を堰き止めていた土嚢を外すと、白い流れが勢いよく魚道の上を走り、全身が泥まみれになった参加者たちの顔に笑顔が溢れました。一件落着きと言いたいくところですが、まだ続きがあります。

2021年11月10日、ウトロのアメダス観測史上5番目に多い降水量を記録



## すみれ 佐々木 董さん

魚道づくりに参加した「地域みらい留学生」\*

私たちの手で、あの高い段差に魚道が造れるの？って最初は半信半疑でした。でも岩瀬さん指導の下、多彩な人たちがチームワークを発揮して、たった2日間で完成させちゃいました。感動です！  
環境省や知床財団の職員、そして地元の人々と私のような高校生が、交流を深めながら一つの目標を達成できたことは、まさにSDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の好例になったと感じています。今後この経験を活かして、地域社会に積極的に関わっていきたいと思います！

\* 高校2年生の1年間、在籍している高校とは別の高校で過ごす国内留学制度。正式名称は「地域みらい留学365」。



■写真上：完成直後の魚道。水が無事に流れた時は、参加者の歓声が響いた。  
 ■写真下：崩壊直後の魚道。自然の力を思い知ると共に、リベンジの意欲が沸いた。

する豪雨が発生。轟音を響かせながら流れる濁流を横目に盤ノ川へ向かうと、絶望的な光景が：落差工に連結された魚道上部は大きくえぐり取られ、中間より下は濁流に飲み込まれ確認することさえできない状態に…。水が引いた翌日、あらためて現場を確認し、魚道上部の半分が損壊する被害であることが判明しました。直ちに岩瀬さんによる現地調査が行われ、原因究明とともに翌年の修繕の段取りが進められました。圧倒的な自然の力によって叩き壊された魚道に無念さを感じつつも、ここでの魚道づくりの試行錯誤は始まったばかりで、次こそは洪水にも耐え得る

魚道を作りたいという決意が固まりました。今回の魚道づくりを通じて、私たちは魚の目線で川を見るようになり、そして日常的に河川環境へ関心を持つようになりました。魚道づくりは小さな取り組みですが、今年で45周年を数える当運動が唱える豊かな生態系の復元を象徴する絶好の教材であったと振り返って思います。盤ノ川の魚道が正常に稼働し、下流側にある2基のダムが改良された近い将来には、サクラマスの遡上域が上流へ1kmほど延びる見込みです。岩尾別川に赤く染まったサクラマスが数多く遡上する日を夢見て、私たちの挑戦は続きます。

## 各種魚道情報

### 学ぶ

■ NHK特集「知床流の魚道で海と森をつなぐ」

<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-n957cd017ea48>  
 ＊魚道の解説や作業の様子の記事を見ることができます(閲覧期限2023年12月迄)。



### 参加する

■ 2022年度「魚道づくりボランティア」参加者募集

<http://100m2.shiretoko.or.jp/>  
 ＊作業日は秋頃を予定しています。詳細決まり次第上記ホームページで告知します。



知床財団  
 自然再生・交流推進担当参事  
 中西 将尚

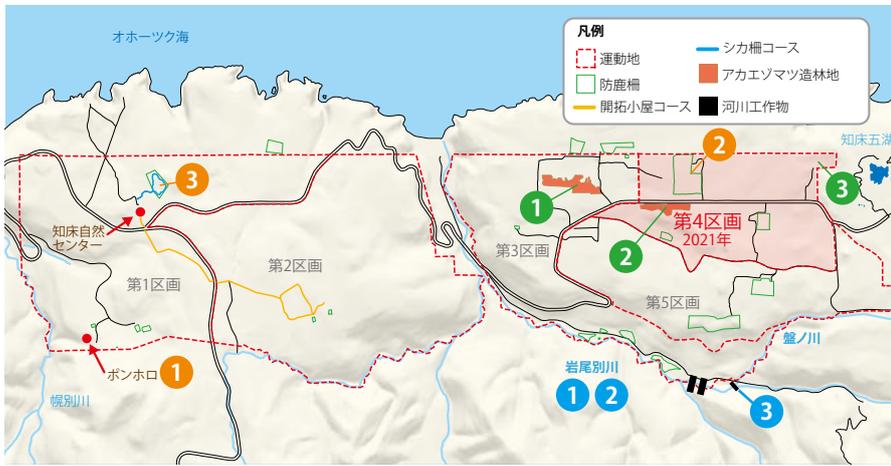
皆さんはじめまして！知床財団の中西です。私は、これまで主にヒグマ対策を担当していましたが、自然教室や森林再生作業にも深く関わってきました。魚道づくりでは現場監督を務めています。皆さんのご参加お待ちしております！



魚道設計者 岩瀬晴夫さん

# 100平方メートル運動地 2021年度 活動報告

昨年引き続き、コロナ禍の影響により知床自然教室は中止しました。また、森づくりボランティア活動も、地元参加者に限定するなど規模を縮小しながら実施しました。このように、各種活動に制限が加わる年が続いていますが、新たな自然体験活動も始めました。今後も運動参加者と知床を結ぶ活動を展開していきます！



## 森

森林再生

### 1 間伐とササ地掻き起しの合わせ技！



アカエゾマツ林の間伐後、自然散布による種子発芽を促進させるため、林内のササ地で掻き起し作業を実施しました。今後は、この手法を評価するためモニタリングを行います。

### 2 アカエゾマツ林の樹種多様化進行中



間伐後のアカエゾマツ林では、中型広葉樹の植樹を進めています。これまで44本を植え、人の手で森の遷移を進めました。自然の時の流れでは、小さな1歩かもしれませんが、今後は着実に植樹活動を続けていきます！

### 3 苗木を育てた防風柵



防風柵の維持管理を続けて早20年。その周辺に植えた苗木は着実に大きくなり、今や防風柵の高さを越えるほど生長しました。風から木を守るというシンプルな手法ですが、その効果は絶大です。

## 川

生物相復元

### 1 オホーツク海に旅立つシロザケの稚魚



岩尾別川から海へ下ったサケマスの稚魚数を調査し、推定数はシロザケが26,328尾（前年度20,528尾）、カラフトマスが2,377尾（前年度4,598尾）となりました。河川環境の改善を評価するための重要なデータになります。

### 2 海と森をつなぐサクラマス



9月上旬、岩尾別川流域にてサクラマス親魚10尾の遡上が確認されました。内1尾は改良済み砂防ダムの上流にてシマフクロウに捕食された死骸で、河川環境の改善の一端を垣間見る出来事でした。

### 3 魚道のバージョンアップを目指して



設置後すぐに記録的な大雨によって半壊した盤ノ川の魚道。増水時の水圧がかかる魚道上部を石積みにする等、強固な構造へ再設計して修繕する計画が進められています。

## 人

運動地公開

### 1 大好評！「斜里っ子自然教室」



コロナ禍でも、子ども達に体験活動を提供したいという思いから、日帰りキャンプ「斜里っ子自然教室」を開催しました。斜里町の子ども達と一緒に自然の中で遊び、久しぶりに知床の森に子どもたちの声が響きました！

### 2 「森の集い(植樹祭)」で広葉樹植えました！



植樹祭で広葉樹を植えるのは7年振りです。シウリザクラとキハダを防鹿柵内に200本植えました。今後は、ササに負けないように定期的な下草刈りを行い、生長を見守ります！

### 3 森づくりスタッフが運動地をご案内！



知床自然センターを訪れた方々を対象に、森づくりを解説するツアーを夏に2回行いました。森づくりの想いを直に伝える貴重な機会です！今年もお盆時期に開催します。知床にお越しの際はぜひご参加ください。

# アカエゾマツ間伐材の活用 にチャレンジしています！



樹種多様な森に導く過程でアカエゾ

マツの間伐材が大量に発生しています。

その間伐材は運動地の土に還す方針ですが、長期間置くとキクイムシを誘引する恐れがあるため、今後の問題

になっていました。そこで現場では、東京大学の森教授（森林再生専門委員）の研究室の協力を得て、間伐材に集まるキクイムシのモニタリング調査を実施しました。

調査は、2021年5月～10月の期間に行いました。手法は、間伐材の集積地にTWT（トランク・ウインド



■クリアファイル製のTWTを設置する職員。ナラ枯れの原因であるカシナガキクイムシを捕らえるトラップとして、各地で用いられています。

ウ・トラップ）と呼ばれるトラップを

数ヶ所設置して、キクイムシが捕れる量を期間中記録しました。結果、現時点では間伐材にキクイムシが著しく集まってくる様子はありませんでした。

その理由として、間伐材の集積地が乾燥した場所であったことや、重機による間伐時に樹皮がある程度剝離したことで、キクイムシの生息に適さない環境が偶然にも生まれていた事が考えられます。但し、1年目の調査だけでは断定できないため、今後もキクイムシの発生を未然に防ぐ対策を講じな



■間伐材は、分解を促進するため極力樹皮を剥ぎ、地面に接するように拡散して置いています。



■チップは、知床自然センターに隣接する運動地公開コースに敷きました。

がら、密度調整作業を進める方針です。また間伐材の活用として、チップにして運動地公開コースに敷く試みを始めました。チップにすることで、路面の保護や土に還るまでの期間が早まる効果が期待できます。その他にも、魚道の資材や枝葉から精油を抽出する等、運動地内で積極的に活用していきます。

昨今、日本各地でも間伐材の活用が積極的に行われています。その中において、間伐材を自然の営みに還すために試行錯誤している私たちの森づくりは、特異な存在と言えるかもしれません。しかし、自然の営みを最優先にする森づくりの実践こそ、他所では真似できない、私たちの価値だと言えます。

す。そして、その中で培った経験や手法は、自然と人のより良い関係を目指す社会の中で、先駆的な事例として役に立つ日が来るはずです。



■魚道の土台に間伐材を用いました。なお、製材時に発生する辺材もチップにして、余すところなく活用しています。



■アカエゾマツの精油は、100平方メートル運動ハウスのルームフレグランスとして展示活用しています。



## 洲上 奈央子さん

ダイキン工業株式会社  
CSR 地球環境センター

ダイキン工業株式会社勤務。グローバル戦略本部にて欧州マーケティング業務に従事したのち2011年よりCSR・地球環境センターにてCSRコミュニケーションや生物多様性保全業務を担当。同部署への配属と共に知床のプロジェクトが始まり以降10年間、知床と歩み続けている。2児の母。

はじめて知床を訪れたのはいつですか？

2011年10月の知床ボランティアですね。それまで二度も知床に来たことがなかったので、私にとっては未知の世界でした。以前は海外営業を担当していたので、出張と言えばスーツ姿にハイヒールというスタイルで飛行機に乗り込んでいましたが、知床出張の持ち物は、長靴、帽子、カッパに日焼け止め、等々。なかなか面白い所きたな、という第一印象でした。そんな知床行きも気づけば30回を超えていると思います。今では冬の知床の身支度まで完璧になりました(笑)。

ダイキン工業と知床のお付き合いは2021年でちょうど10年を迎えました。

10年前、知床のボランティアに参加し始めたことは、私にとっては大きな出来事でした。現場を自分の目で見て、現地の人の話しを聞くことは、机の上で環境のことを考えることとは全く違いました。会社にいると費用対効果とか結果ばかりを追いかけてしまいうけど、保全につながるプロセスの大切さとか、人と人とのつながりが最終的に保全活動に結びつくこととか、現場に足を運んだからこそ見えてきました。

うちの会社は、社員の思いや一人一人の力を期待してくれる会社で、そう

## 森づくりの現場から

という会社の色に、従業員対象の知床ボランティアがあつているなあ、って思っています。知床ボランティアに参加する人たちは、毎回個性が強くてまさに「diversity (多様性)」ですよ、私を含めて(笑)。

私の役割は、自分だけが行動して終わるのではなく、自分の行動や知識をまわりに波及させていくことなんだと思つています。そこで、自分の身近でできることは何だろう、と考えたときに家族の顔が浮かび、私の双子の息子たちを2018年と2019年の2年、知床自然教室に送り込みました。飛行機に子どもたちだけを乗せて知床へと旅立たせるのは、親の立場としても冒険でしたね。今の時代、SNSも発達している

ので、たいていリアルタイムに預けた先の様子かわかつたりしますが、知床自然教室は違いました。出発してから戻ってくるまで、緊急時を除いて連絡は特段なく、ほとんど1週間静観してました。でもそれがかえって親も子供も大事なことは何か、ということを考えさせられるいい機会になるのだと思ひましたね。

洲上さんから見た知床とは？

ダイキン工業が取り組むプロジェクトでは知床のほかに世界7か国と事業を進めています。例えばアマゾンなどに行つても現地の人に話を聞くと、知床の現場の話とつながることが多いんです。そういう時、「知床は世界とつながつている」と思っています。地球規模で考えた時、抱えている課題はみんな同じなんだと思ひます。そして課題解決には、知床で実践しているボランティアのような「仲間づくり」がとても大切だなと思ひます。

一人の力は小さいけれど、それが輪になって広がつていくと大きい力へと変わつていく、そこをあきらめない、そこが大事だ、ということを、私は知床の現場から教えてもらつたと思ひています。

知床は私にとって、もう「ふるさと」ですね。最初はえらいところにきちゃつた...と思ひましたけど、今は知床に着くと「帰つてきたなあ」と思ひます。毎年、変わらない景色があつて。親戚のおじちゃん、おばちゃんがいっぱい待っている！みたいな感じですよ(笑)。

## 株式会社ゴールドウイン様と斜里町との地域連携協定締結

2021年10月9日土曜日、知床自然センターにて、株式会社ゴールドウイン様と斜里町は「地域活性化に関する地域包括連携協定」を締結しました。

株式会社ゴールドウイン様は、2019年5月に知床自然センター内に直営店「THE NORTH FACE HILLY HANSEN 知床店」をオープン以来、アウトドアウェアやギアの販売だけでなく、知床トコさんデザインキッズTシャツの売り上げの部のご寄付、トレッキングイベントの開催、植樹祭や森づくりワークキャンプなどの森づくり作業への参加、盤ノ川での

簡易魚道整備作業への参加、ごみ拾いや国道沿いの除雪ボランティアなどで一緒に汗を流し、知床の自然復元活動や景観美化、アウトドア振興に貢献して頂いています。

このたびの地域包括連携協定締結により、①知床国立公園の魅力や価値の向上、②アウトドアアクティビティ促進、③子どもたちの自然体験の場の創出、④地域産業との連携や知床の環境保全、⑤マーケティング、ブランディング及びプロモーションの相互協力、⑥その他地域活性化に関し連携します。

今後は、自然教室への協力、当トラストで計画している新規トレイルコース整備にご協力頂くなど、具体的な連携事業を検討します。今後とも世界自然遺産であり国立公園でもある知床を訪れる皆様に、この自然を体で感じてもらい、自然を愛する仲間を増やし、豊かな自然を未来に継承すべく、ともに取り組んで参ります。

## 「YAMAP」アプリで登山者の想いを知床の森づくりに変える

登山アプリを運営する株式会社ヤマップ様より、アプリ内のポイントを通じ、しれとこ100平方メートル運動の森・トラストへ寄付を頂きました。YAMAPとは、携帯電話の電波のない山の中でも地図と現在地を見る

ことができる登山アプリです。アプリ運営事務局がユーザーに配布するDOMO（ドモ）ポイントは、ユーザーがアプリ内で登山情報を公開するなど「利他的な行動」をとること等で配布されます。得たポイントはユーザー同士で贈り合う、森づくりや登山道整備への寄付などに使用できます。

かねてより知床連山では、山のし尿対策、ヒゲマ対策、遭難対策、登山道荒廃対策について、ボランティアを含む関係者の協力で行われてきました。アプリを使えば、GPSなどの通信機能や、ほかのユーザーの山行記録を参照可能になることで安全な山行につながります。

このたび、2021年9月17日

から12月16日までに「知床の森を育てるin北海道」プロジェクトに寄付されたポイントに相当する5百42万5千円が、株式会社ヤマップ様から当トラストに寄付されることが決まりました。

ご寄付は、広葉樹苗の植樹、エゾシカ侵入防止柵の強化・修繕に活用されます。お礼記事の公開やオンライン講演会を通じて当トラストを皆様に詳しく知ってもらう機会を作った他、今後は寄付によって行われた活動報告の記事を公開するなど、ユーザーの皆様へご報告いたします。



**YAMAP**

ワイルドな自然体験を  
カムイワツカ湯の滝試行事業

2021年、一の滝より上流の立ち入りが規制されていたカムイワツカ湯の滝で利用再開に向けた試行事業が実施されました。かつては上流滝つぼで温泉に浸かって楽しむ人の姿が見られましたが、今は巨岩で滝つぼが埋まってしまっています。2006年からは落石のおそれから、落石防止柵などの設置が困難な区域の下流に監視員を置いて、一の滝以奥を立ち入り禁止とする措置が長らく講じられてきました。

今回の試行事業は、ガイドツアー（7月）とレクチャー履修後の個人散策（10月）を実施し、2021年から3年間の試行期間を通じて安全性と利用者の満足度等を評価します。今回の利用者からは「また来たい」「良い思い出になった」と笑顔が見られました。



野生動物への接近・つきまとい・餌やりで30万円以下の罰金

2022年4月1日より自然公園法が改正され、野生動物への接近・つきまとい・餌やりが規制対象となりました。国立公園の特別地域等において、鳥類・哺乳類に餌を与えることやその他の野生動物の生態に影響を及ぼす行為には30万円以下の罰金が科されることが明文化されました。これまでも斜里町のポイ捨て禁止条例や北海道の生物多様性保全条例では、ポイ捨てやヒグマへの餌付け行為をやめない者の氏名等を公表する旨定められていましたが、生ごみの投棄や餌付け行為はなかなか減りませんでした。自然公園法改正による実効性強化を期待します。

\* 国立公園・国定公園内の全域ではなく、特別地域（知床の場合、陸域は大半が特別地域）や集団施設地区（羅臼・滝ノ沢）などが対象です。



絵本「しれとこのみずならがはなしてくれたこと」が発行されました

しれとこ100平方メートル運動を題材にした絵本が発行されました。作・絵は、知床の動物をテーマにした絵本を多数出版されている斜里町在住の絵本作家あかしのぶこさんです。物語は主人公である古老のミズナラの木が1頭のヒグマに語りかけるところから始まります。ミズナラが何百年もの間に見てきた知床の森でおきた出来事や様々な人との出会いを、時代ごとの情景を回想しながら展開されます。そして未来へとつながる物語のエンディング。絵の背景には森に棲む生き物や人々の暮らしが細かく描かれおり、それらを探しながら読むのも楽しい絵本です。当運動の活動を見開きの鳥観図で描いた図録も必見です。

※この絵本の製作費には、ダイキン工業株式会社が寄付が使われています。



■ 知床財団のホームページからご購入できます。¥1,980（税込）  
<https://www.shiretokokomnupuri.shop/>



## 推進本部・各支部の活動報告

### ◆ 推進本部と各支部のミーティングを開催

10月の植樹祭の日にあわせて、推進本部・支部ミーティングを開催し、28名が参加しました。意見交換では、広報活動として各支部で配布できる絵ハガキの作成や、地元斜里のサポーターを増やすためのイベント開催が提案されました。また、森づくりの現状を知るため、森林再生専門委員会議を傍聴したいとの要望もありました。今後の活動に大きなヒントが得られる、実りある集まりとなりました。



### ◆ 新しい関東支部長が就任しました

関東支部長に國廣美樹さんが就任されました。國廣さんは知床自然教室の元参加者で、今でもリーダーとして関わり続けており、行動力に満ち溢れた人材です。若い世代の運動への参加を増やすことが大きな課題とされる中、新支部長の活躍が期待されます。支部長を勇退された税所功一さんには、この場をお借りして、これまでの長きにわたるご尽力に感謝を申し上げます。

## 各支部の活動に参加してみませんか！

100平方メートル運動の各支部は、森づくりや各種イベントに参加して、現地の活動をサポートしています。また、それぞれの地域において、運動を普及する取り組みも展開しています。一緒に100平方メートル運動を盛り上げましょう！

### 関東支部



支部長：國廣美樹

連絡先：100m2kanto@gmail.com

こんにちは。関東支部は関東圏に住む方のための「知床好きによる、知床好きのための、知床とつながる」組織です。知床が将来にわたって現在ある価値を持続していくための活動を、関東圏で皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。関東でできるイベントや情報発信など只今絶賛検討中♪持ち込み企画も歓迎です！

#### 関東支部2022年度活動スケジュール

- 6月：関東支部のInstagramアカウント開設予定
- 8月：知床自然教室運営サポート
- 9月：知床自然教室リーダー研修キャンプ実施
- 10月：森の集い植樹祭参加
- 12月：支部ワークショップ（仮）参加
- 1月：東京の都市公園で知床プログラム（仮）実施

### 関西支部



世話人代表：小田忠文

連絡先：100m2kansai@gmail.com

関西支部ではこれまで、自然教室参加者の同窓会を開いて、世代を超えた親睦を図ってきました。今後は、関西圏で自然観察会などを企画して、より一層運動参加者同士の繋がりを強めていきたいと思っています。

西日本・九州エリアにお住まいの皆さま、関西支部と一緒に運動を盛り上げて行きましょう！まずはお気軽にご連絡ください。皆さまのご参加、お待ちしております！

#### 関西支部2022年度活動スケジュール

- 8月：知床自然教室支援
- 10月：植樹祭・森の集い参加
- 秋：支部ワークショップ参加
- 3月：支部世話人研修会（天神崎）
- 随時：リモート世話人会

### 北海道支部



代表：小川巖

連絡先：011-737-7841  
（環境市民団体・エコネットワーク内）

北海道支部は、運動が始まって40年目の2018年に発足した5年目の組織です。知床国立公園と世界自然遺産地域内にある運動地は、知床の多様な生物にとってかけがえのない場所です。私たちは、この地の森林再生に貢献するため活動を進めています。皆さんから1人でも多く、北海道支部に参加いただければ幸いです。

#### 北海道支部2022年度活動スケジュール

- 10月：しれとこ森の集いに参加
- 12月：若者対象のワークショップの開催
- 1月：道民カレッジ連携講座への参画
- 3月：知床100平方メートル運動セミナーの開催

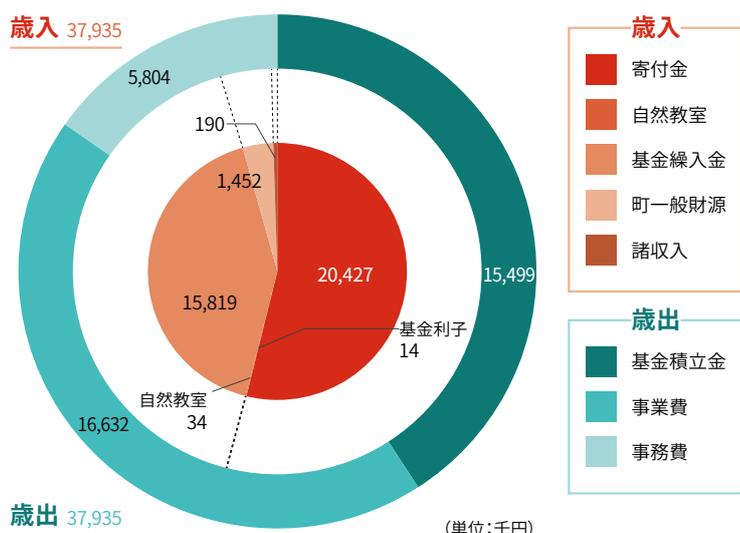
(単位:千円)2022年5月31日現在

		2020年以前	2021年	計	
国立公園内森林保全基金の状況	歳入	寄付金	942,614	15,485	958,099
		利息	69,931	14	69,945
		計	1,012,545	15,499	1,028,044
歳出	事業費	800,201	11,657	811,858	
	事務費	146,923	4,162	151,085	
	計	947,124	15,819	962,943	
残高		65,421	▲320	65,101	

運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

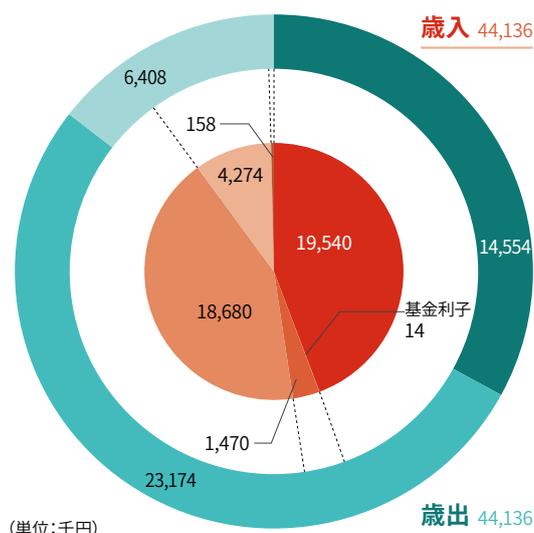
# 会計報告

## ○2021年度の事業決算

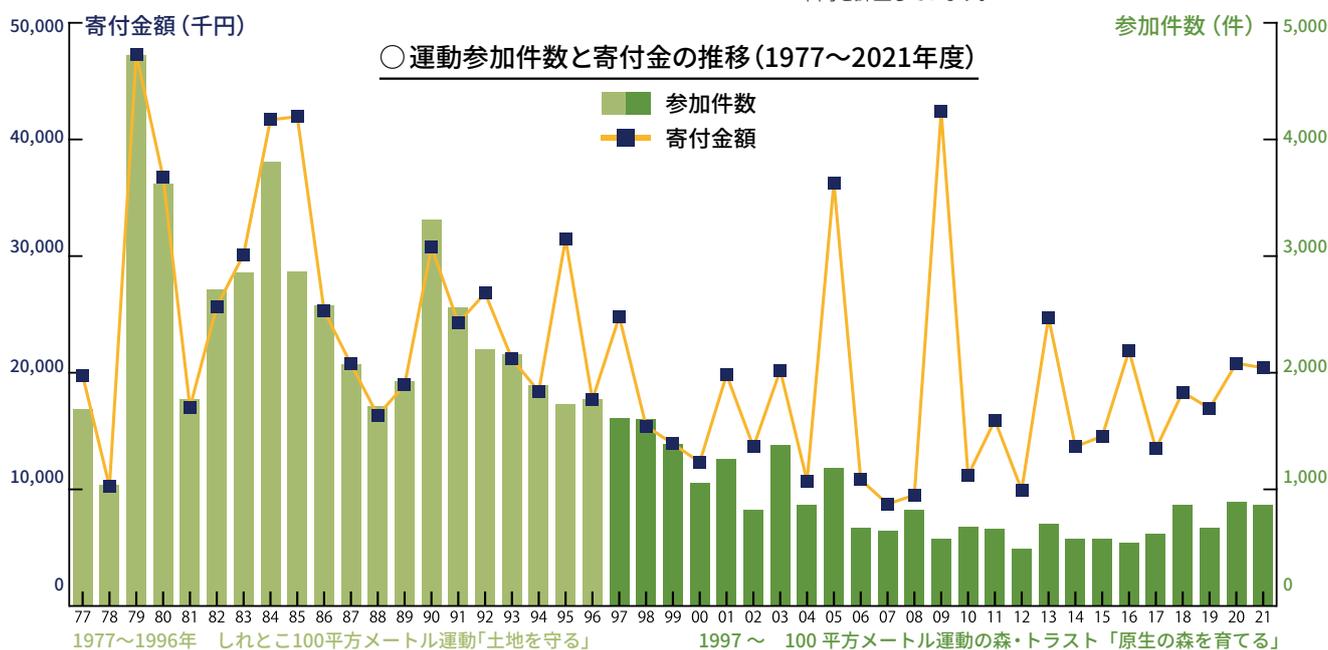


2021年度は、総額 37,935 千円を支出しました。  
 事業費として森林再生業務委託費などに 16,632 千円、事務費として森通信の作成費用や受付事務員賃金などに 5,804 千円を支出しました。  
 2021 年度にいただいた寄付金に利子を含めた総額 20,441 千円のうち、15,499 千円はいったん運動の基金に積み立てて 2022 年度以降の活動資金とし、企業版ふるさと納税分の 4,942 千円は 2021 年度の森林再生業務委託費として活用させていただきました。

## ○2022年度の事業予算



2022 年度の総事業費は、44,136 千円を予定しています。  
 収入では、これまで積み立ててきた運動の基金から 18,680 千円、町の一般会計から 4,274 千円を繰り入れるほか、寄付金の目標額として 19,540 千円、その他 1,642 千円を見込んでいます。  
 支出は、森づくり作業等に係る事業費 23,174 千円を予定しています。また、事務費として森通信印刷などの広報普及費用や受付事務員賃金などに 6,408 千円を支出する予定です。  
 この他、寄付金などはいったん基金に積み立てるため 14,554 千円を計上しています。



# 知床の森づくりには、あなたの力が必要です!

## 森づくりボランティア&イベント参加者募集中

### 森づくり週末ボランティア



#### 2022年(春~秋)

・6月~9月にかけて  
随時実施予定

#### 【活動内容】

主に苗畑作業(除草・苗木  
移植等)や防鹿柵の補修  
作業を行います。



#### 2023年(冬)

・1月末~2月中旬頃  
実施予定

#### 【活動内容】

冬期森づくりの道の管理  
や間伐作業を行います。

### しれとこの森交流事業



#### ● 森づくりワークキャンプ

2022年 10/30(日)~11/3日(木) 予定  
参加費:16,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)  
対象:18歳以上  
定員:12名(先着順) 申込×切9/30



#### ● 第41回知床自然教室

2022年 7/30(土)~8/5日(金) 予定  
参加費:35,000円(別途現地までの交通費)  
対象:小学校5年生~高校3年生  
定員:24名(抽選) 申込×6月上旬



#### ● 第26回しれとこ森の集い(植樹祭)

知床サステナブルウィーク同時開催予定  
2022年 10/9(日) 予定  
参加費:無料 申し込みは  
斜里町役場 環境課(自然環境係)まで  
TEL:0152-26-8217 FAX:0152-23-4150

イベント・ボランティア参加申し込み・お問い合わせ

公益財団法人 知床財団 自然復元係

TEL:0152-24-2114/MAIL:info@shiretoko.or.jp

※各種イベントの日程は、開催決定後

ホームページでお知らせします。 <http://100m2.shiretoko.or.jp/>



## 100 平方メートル運動の森・トラスト参加のお願い

知床の森づくりは、「100 平方メートル運動の森・トラスト」参加者からの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願い致します。

### ■寄付金:1口5,000円

#### 参加(寄付)の方法

● 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。

#### 【郵便払込】

申込書付属の払込取扱票で払い込みください。



寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。メッセージを添えて、ご家族ご友人へ贈るプレゼントにもおすすめです。

#### 【ホームページ】

<http://100m2.shiretoko.or.jp/>



「寄付のお願い」  
ページからお申込み  
ください。

#### 【現金書留】

申込書を同封の上、現金書留を  
斜里町役場にお送りください。

#### 【ウェブ決済】

ふるさとチョイス経由のみ可能です。



ふるさとチョイス 斜里町 で検索



クレジット決済、  
楽天ペイ、Amazon Pay、  
メルペイ、PayPal、  
d払い等各種。

#### 【控除制度について】

運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。

- ・相続税は非課税となります。
- ・所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- ・住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- ・控除の対象となるのは、2,000円を超える寄付です。

#### 【お問合せ】

〒099-4192

北海道斜里郡斜里町本町12番地

斜里町役場 環境課(自然環境係)

TEL : 0152-26-8217

FAX : 0152-23-4150

MAIL : 100m2@town.shari.hokkaido.jp

森づくりをSNSにて発信中

